



- 2. 総会・保育所長研修会
- 3. 第60回静岡県保育研究大会
- 4. 各分科会報告(1～8分科会)
- 12. 県保育研究大会に参加して
- 14. 新規採用予定職員研修会
- 16. 保育士養成施設(校)との意見交換会

- 18. 各研修報告
- 19. 専門委員会報告
- 20. 海外交流研修
- 22. キャリアアップ研修
- 23. 支部だより

📷 写真提供：袋井市 袋井ハロ一保育園

平成31年度

静岡県保育連合会総会 並びに 保育所長研修会 開催

平成三十一年度静岡県保育連合会総会は、静岡県健康福祉部理事の長田雅孝様、静岡県社会福祉協議会常務理事の松浦康夫様、静岡県健康福祉部こども未来局こども未来課長山本智ひろ様のご来賓の皆様をお迎えして、静岡市民文化会館において開催されました。

最初に本年度より静岡県保育連合会会長に就任しました土山雅之会長より「保育の無償化、保育指針の改正、社会福祉法人法の改正



など、保育を取り巻く環境が大きく変わる中、私たち保育所、認定こども園は地域で最も身近な子育て支援の拠点として、より質の高い保育を実現し、こども

の育ちを保証し、地域の子育て文化を育み、地域を元気にしていく積極的な取り組みが必要となってきました。その中で県保連としては、制度改革や運営について、また保育の質の向上について、といった側面から、県内

の保育所、認定こども園に通うすべての子どものため、そこに働くすべての職員のため、会員の皆さまと一緒に頑張って少しでも良い方に向けて行けるように最大限の努力をしています。」と力強く挨拶されました。その後、長田理事、松浦常務理事からもお祝いのお言葉をいただきました。



次に総会に移り、議長に静岡市沼上こども園森下健二園長、副議長に浜松市立可美保育園園森川好美園長を選出し、議事に入りました。

議案として
第一号議案 平成三十一年度事業報告並びに収入・支出決算について、第二号議案 会長指名理事の承認及び監事の選出について、第三号議案 平成三十一年度事業計画(案)並びに収入・支出予算(案)についての議案が審議され承認されました。また、報告事項として経理規定の制定について報告がありました。その後、新規加盟園が紹介されました。

期日 平成三十二年四月二十六日
会場 静岡市民文化会館

総会終了後、引き続き保育所長研修会が開催されました。講師にはNPO法人 保育の安全研究・教育センター代表理事の掛札逸美先生をお招きして「保育の価値とリスク 深刻事故予防と保護者コミュニケーションにおける施設長の役割」というテーマで一時間半にわたりご講演いただきました。

リスクとは、目的に対する不確かさの影響であり、保育や教育、子育ての世界では、リスクが良い方向へ乖離することも想定している。そのための保育環境をどこまで提供するか、園や法人の価値を決める。

価値とリスクは、保護者に伝えることが必要であり、保護者には「子どもはケガをして育つもの」を認識してもらうことがとても重要である。

保育園を守ること
は、子どもの育ちを保障することであり、また、職員を守る事でもある。

園の価値として、
これからの保育に必要なものは何かを再認識させていただいた講演でした。



第六十回

静岡県保育研究大会

令和元年五月十日 浜松市

静岡県保育研究大会は、県内東・中・西部の持ち回りで行われており、令和の最初にして六十回の節目となる本年の大会は、アクロスシティ浜松を会場として開催しました。

「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現を目指して」を主題とし、保育所・認定こども園等の社会的意義と役割、保育実践などの議論を深め、積極的な意見交換が行われ、参加者同士がお互いに研鑽を積むことが出来ました。

今年も八つのテーマについて、分科会毎に三名が日頃の保育実践を発表し、参加者から



の質疑を受け、互いに今後の保育・教育について学び合う機会となりました。保育者が日々の保育の中で出会う、子どもの成長を感じた関わり方や支援のあり方、環境の設定や保護者との関係性など、参加者の誰もが身近に感じられる発表は、改めて保育を考えるきっかけになったと思います。

これからも、子ども達にいちばん近い存在である保育者が、子どもたちの『今』に必要なこと、大事なことを的確にとらえ、社会に対して『保育』を発信していく力をさらに磨ける場となれば幸いです。

本大会が滞りなく、充実した研修の場となりましたことは、すべての関係者の方々のお陰と深く感謝申し上げます。

第一分科会

テーマ【新たな時代の保育実践
～すべての子どもにむけて～】

発表者 ①富士市 えのき保育園

主任保育士 後藤久美子

②静岡市 藁科ブロック

保育教諭 村松 佑美

③いわた保育士会 新たな時代の
保育実践部会

保育士 山川 恭子

議長 長泉町 このはな保育園

園長 伊藤 悟

助言者 静岡産業大学

教授 漁田 俊子

記録者 長泉町 このはな保育園

保育士 内田 陽子

発表(一) 季節を感じることで心を育てる

開園以来、乳児保育の重要性を深く認識し、保育を実践しているえのき保育園。今回は、四季折々の保育や伝統的な行事を、「〇・一・二歳児の発達に沿った、子どもの身も心も豊かにしてくれるものとは何か」という観点から見直した。子ども達が「五感を通して季節や自然を感じる」ことに焦点をあて、計画・実行を繰り返した。今の自然を感じ、今を楽しく意欲的に過ごすことで、心豊かな成長に繋がっていくということに改めて気づいた。子ども達との丁寧で細やかな関わりが、嬉々とした表情や笑顔を生みだしていた。

発表(二) 自分から遊びを造り出すための 保育者の援助

八つのブロックに分かれる静岡市の公立子ども園。藁科ブロックでは、各園で実際の事例を用いた研修を行い、そこで話し合った内容をブロック研修に持ち寄り検討し、さらにそれを園内に持ち帰り、再度検討するという取り組みをしている。一度で終わらないことで、客観的な振り返りができ、一歩先の気付きに繋がっている。さらには、講師による講演会やアドバイスから、専門性の向上を図っている。大人が先回りしすぎず、子ども同士の衝突や、悩むという行為までも大切にできるのは、このような積極的で質の高い取り組みに裏打ちされていた。

発表(三) 保育者が子どもの育ちを捉える力を 養うために

子どもの育ちを捉える力を養うため、アンケート調査と公開保育の事例検討という2本柱で取り組んだ「いわた保育士会新たな時代の保育実践部会」。アンケート調査では、自分の姿や保育、人間関係などを自分自身で評価、その後、事例検討研修をはさんで再度同じ調査を行い、回答の変化を分析。明らかに前向きな傾向が表れ、自由記述にも肯定的なコメントが増えていた。保育者としての意識を、まずは目に見える数値にする。一見遠回りに思えた取り組みは、「保育の質向上」への近道になっていた。

助言者より

「五感を育てる」事を、丁寧に、意識して実践しているえのき保育園。雨の日さえも楽しみに変えてしまう計画、豊かな感性を育むための言葉がけは、乳幼児期に欠かせない経験を提供している。

「日々の保育と指針をつなげる」ためには、藁科ブロックの取り組みが非常に参考になる。事例を深く検討し、子どもの思い（責任感・意欲・思考等）を記録に残すことで、日々の実践と一〇の姿とを見事につなげている。取組み自体の素晴らしさに加え、数値の持つ説得力を改めて感じさせられた「いわた保育士会新たな時代の保育実践部会」の発表。いずれの発表からも、子ども達の未来のために、今この瞬間を大切にしていることを強く感じられる分科会となった。



第二分科会

テーマ 【配慮を必要とする子どもや

家庭への支援に向けて】

発表者 ①伊豆市立熊坂こども園

保育教諭 佐藤 梓

発表者 ②牧之原市 静波保育園

保育士 山本早知子

発表者 ③湖西市立新居保育園

保育士 山本美早紀

議長 島田市 五和保育園

園長 山口 学世

助言者 静岡大学教育学部

教授 香野 毅

記録者 島田市 初倉保育園

園長 曾根 初乃

発表(一) 配慮を必要とする子どもや

家庭への支援にむけて

くぎづく つなぐ ささえるく

園内の特別支援コーディネーターを中心に情報共有など、園全体でのチームで子どもを支える保育を行う。子どもを語る会で支援体制の見直しをし、子ども理解を深めていくと共に保護者支援にも取り組み、保護者とのコミュニケーションや信頼関係を構築し、子どもが生活しやすい為の方法を考えていく。また、市の三つの課が繋がり、五才児健診が行なわれ、関係機関がそれぞれの専門性の視点の違いを生かした連携にも取り組んでいる。

発表(二) 配慮を必要とする子どもや

家庭への支援にむけて

く育ちの喜びが見えるエールプランく

支援を必要とする子どもについて、その特質からサポートが必要と思う項目をあげ、子ども一人一人が自信を持ち、主体的に活動できるように子どもの育ちを応援するエールプランをたてた。三ヶ月に一度、計画、実践振り返り、改善を行う事で、保育の目標が明確となり、どの子にとってもわかりやすいユニバーサル支援となる。エールプランを立てる事で、楽しいと思える体験や、やってみようと思う気持ち、自己肯定感を育む環境構成を意識し、保育することができた。

発表(三) 配慮を必要とする子どもや

家庭への支援にむけて

く専門機関へのつながりについてく

一才七ヶ月の入園当初より、気になる姿のあるA男と関わりながら、保護者との信頼関係を大切にしてきた事で、保護者の気持ちも少しずつ変化し、A男にあった支援方法を学んでいきたいという思いも保護者に伝わり、三才児になって、家庭、保育園、療育機関が上手く繋がり、A男の成長を保護者と共有できた。また、専門機関の見学を通して、家庭や保育園でも同じ様に対応していく事で、大きな成長が見られ、連携を図る事が子どもの成長にプラスになる事を実感した。

助言者より

専門機関をうまく利用できている。関係機関としては、医療、相談、療育機関などがある。適切なアセスメントをもとに、その子に合った支援や理解を提供することで、生活がより安定し豊かになる事を目指す。また、自分たちで出来ている事と子どもが出来ている事を整理した上で、個別計画を立てていく。外国籍の子どもでは、異文化からの適応には一定の難しさがあり、言語に制約がある中で、障害があるかもしれないという受け止め方に違いがあることがある。



第三分科会

テーマ 【保育者の資質向上を図る】

発表者 ①伊東市 川奈愛育クラブ

園長 林 英美

②静岡市 飯田ブロック

静岡市立飯田北こども園

園長 吉川 千愛

③浜松市 湖東白ゆり保育園

主任保育士 笠原 仁美

議長 浜松市 みそらこども園

園長 東山 和樹

助言者 常葉大学保育学部

教授 山本 睦

記録者 浜松市 みそらこども園

主幹保育教諭 今村 事美

発表(一) 保育者の資質向上を図る

子どもを内面から理解し、

総合的に指導する力

保育者の資質の向上の為に何が必要か職場の指導者が保育者に情報収集し、良好な人間関係の構築、処遇改善、有給休暇の取得率向上、人員確保、外部研修の受講等、園で組織的にサポートし、働きやすい職場環境を整えた。

また、現場の問題解決としてツールを使つての自己分析、子どもの発達の把握、保育のマニュアル化などを実践し、保育者の専門性や子どもを見る目を高めていった。子どもの育ちを通して「大人が何を大切にしているの

か子どもにきちんと伝えることの大切さ」に気づき、保育の質の向上に繋げていくことができる。

発表(二) 保育者の資質向上を図る

質の高い教育・保育を目指す

保育者の資質向上には学び合う組織の雰囲気作りが必要である。時間の使い方を工夫して気軽に保育・子ども理解について意見交換をすることにより職場の人間関係が構築でき、皆で保育するという気持ちが高められていった。

園内研修や公開保育では保育者が課題を知り、助言を受けることで保育の工夫や幅が広がり、次への実践へと活かすことができた。研修後、全職員が共有できるように掲示等で可視化していく環境作りも必要である。保育について話し合える環境を継続的に作り、職員が互いを尊重し保育者としての資質向上に努めていく。

発表(三) 保育者の資質向上を図る

法人園の資質をあげるために

法人三園で園長・主任者会議を定期的に開催している。職員は他園の担当学年クラスの保育に参加し、職員同士の交流を図り、お互いの保育を観て学び持ち帰ることで保育の視野を広げ、他園での取り組みを活かしていった。園内研修では遊びの中に体幹や五感を意識した保育に取り組み研究や話し合いを重ねる中で、人的・物的環境を整える大切さを再

認識した。

園外研修においては「カウンセリングマインド」について学び、日々の保育に活かしていった。今後も法人全体で研修等に取り組み職員の資質向上を図っていく。

助言者より

子どもの自発性や創造性を育てるには、ある程度の枠が必要である。選択肢を準備する中で子どもは学び、集団と個の葛藤の中から自己をコントロールする力が育っていく。集団の中でその子がどんな役割を担うのか？個ではなく集団として何かを達成していくことが大切であると考えたと保育が変わる。非認知能力を育てることは将来、今の子どもたちにとって必要な力になる。

資質の向上とは保育者一人一人の向上のことである
が、園、子ども、保育者、保護者が一体となつて集団で向上していくことは保育の質をあげることに繋がっていく。



第四分科会

テーマ【地域の子育て家庭への

支援の充実にむけて】

発表者 ①御殿場市 保護者支援委員会

御殿場市立東保育園

園長 川口 恵子

②静岡市 三保ブロック

静岡市立折戸こども園

副園長 石橋さおり

③浜松市 和合こども園

保育士 佐藤 君枝

議長 富士市 すみれ認定こども園

園長 後藤 恭佑

助言者 静岡福祉大学子ども学部

教授 永田恵実子

記録者 富士市 すみれ認定こども園

保育士 石田 礼子

発表(一) 地域の子育て家庭への

支援の充実にむけて

～今求められる

『保護者に寄り添う支援』とは

子どもの育ちを家庭と連携して支援していくことを目的に御殿場市公立九園で研修を行った。実際の取り組みとして「親子が笑顔になるための園内掲示の工夫」「一日保育士体験」等の実践を行い、保護者理解を深めることができた。保育士と保護者が、理解し合う、知恵を出し合う、共に学び合う、等の関

係性を築くことが保護者に寄り添う支援ではないかと考える。今後も安心して子育てができるよう保護者支援を充実させていきたい。

発表(二) 地域の子育て家庭への

支援の充実にむけて

子育ての楽しさが実感できる保護者支援

～笑顔で子育てするために～

静岡市のこども園では、子育て支援事業として「おしゃべりサロン」「園庭開放」「一時預かり保育」を実施している。子育て支援事業の実施に併せて、自治会回覧の活用や地域担当保健師との連携、子育て相談、アンケート等を行った。それにより、ネットの情報だけに頼り、悩む保護者に出会い、寄り添うことで不安な表情を解消することができた。また在園児の保護者支援の取り組みとして、丁寧な関わりや保護者への発信方法の工夫し、信頼関係を築くことが大切であると再認識した。今後も地域と共に子育てに取り組めるよう、地域ネットワークの核となっていきたい。

発表(三) 地域の子育て家庭への

支援の充実にむけて

～子育ての不安も楽しみも

みんなで共有しよう

和合保育園では、「わわわひろば」という名目で地域の子育て支援を行っている。支援者は、温かく迎え入れる、身近な相談相手となる、利用者同士、地域、専門機関とつなぐことを役割と考え、支援講座の開講等の工夫を行っ

た。それにより、子育て支援の重要性を再認識し、物的環境と人的環境、相談技術の向上、自分自身の振り返りの大切さを感じた。今後は今以上に地域、子育て関係機関、団体との連携を深め、太いパイプを繋げていきたい。

助言者より

子育て支援事業は保護者に来てもらうということが一番大切である。保育士(支援者)の役割は、カウンセリング・ソーシャルワークをすることである。保育実践を行う前と後でどう変わったのか評価する力も必要である。また、研究するにあたり、背景、目的、方法、結果、考察、結論、今後の課題の流れで記述を行うとより良い。参考文献を記載することで、後に振り返ることができる。



第五分科会

テーマ【子どものより良い育ちに向けた

関係機関とのネットワーク】

発表者 ①富士宮市 富岡こども園

副園長 足立 和俊

②静岡市 静岡ホーム保育学園

園長 横山 羊子

③磐田市 西貝保育園

園長 松下 忠史

議長 静岡市 えじり保育園

園長 井出孝太郎

助言者 常葉大学健康プロデュース学部

准教授 中村 俊哉

記録者 静岡市 だきしめこども園

園長 小林かおり

発表(一) 子どものより良い育ちに向けた

関係機関とのネットワーク

～幼・保・小連携活動を通して～

姉妹園である幼稚園と近隣の小学校との連携活動を十年続けている。計画に基づき年五回交流を行い、実施後にアンケートを取り検証をしていく中で、保護者・小学校と保育現場との意識の違い・考え方のズレが明確になってきた。今後は、園側からも積極的に働きかけ教師間の交流も図っていききたいと思う。また、子どもの育ちを共有していく手掛りとして、「十の姿」を幼・保・小が日々頭に置き、互いに勉強しつつ、連携活動を継続していく大切さを感じている。

発表(二) 子どものより良い育ちに向けた

関係機関とのネットワーク

～育ちの連続性を確保するために～

新保育要領、指針にもある「小学校との連携」を考える中で、各園がどのような取り組みをし、接続をどのように考えているかについて園長会でアンケートを取った。保育園・こども園は連携への意識も高く情報提供の場を望んでいるが、現状は小学校からの案内も少なくなり、地域との関わり方にも変化を感じてくる。接続をどうするか、園側からのアクションによる実践事例を基に検証を行った。一緒に過ごした五歳児をどう見送るか。個々の地域に即した働きを今後も考えていきたいと思う。

発表(三) 子どものより良い育ちに向けた

関係機関とのネットワーク

～地域、居場所との共同子育て～

現代は、子ども達を取り巻く環境からは「体験・経験をする場の少なさ」や「会話・継承」といった「繋がり」が激減している。そうした世相に反し、地域や高齢者との繋がりに恵まれ、保育を通し交流を重ね関わりを深めてきたことが、確実に子ども達の育ちに結びついていることを実感できている。又、三年前に誘致した居場所「楽多クラブ」の存在は子ども達に知識・知恵を与える場となっており、日々、子ども達の姿の中に「十の姿」の育ちを垣間見ることが出来ている。今後も地域との繋がりを続けることで「より良い育ち」を

目指していきたい。

助言者より

園は「十の姿」を常に念頭に置き小学校との連携を考え、どのように育って欲しいかの願いを持ち日々真摯に保育に向き合っている。今後A I化が進んでいく中で、現場だけでは補えない現状に、地域・小学校を巻き込み、また小・中への連携を視野に入れた上で「どう育てていくか」を考え、保育していくことが問われているように感じている。未来を生きた子ども達に必要な「思考の力」も、ネットワークを大いに活用しながら、幼児期にぜひ培って欲しい。



第六分科会

テーマ「食を営む力」の基礎を培う

食育の推進

発表者 ①三島市 白道保育園 主任保育士 土山 麗子

②焼津市 たかくさ保育園 栄養士 望月 悠衣

③菊川市 菊川保育園 保育士 榛村供見子

議長 御前崎市立白羽保育園 園長 笠原 洋子

助言者 NPO法人こどもの森 理事長 吉田 隆子

記録者 御前崎市立白羽保育園 副園長 徳本 美里

発表(一) いのちの不思議といのちを

いただくことへの感謝の気持ち育てる

食を通じて、命の尊さ、

かけがえのなさを子ども達に伝えていく

梅シロップ・梅干し作り、稲作り、野菜の収穫、ブリの調理などの活動を通し、子どもたちに命の尊さや、生かされている命ということに気づくことができるように実践してきた。結果、子どもたちは経験の中で、自分たちが食べているものは手間をかけ、たくさん人の手を経てできていることを知ることができた。また、「いただきます」や「ごちそうさま」などのあいさつも、命をいただいて

いる、たくさんのおかけという感謝の気持ちであるということの再認識にもつながった。この経験を活かし今後もいろいろな活動に取り組んでいきたい。

発表(二) 「ごちそうさま、おいしかったよ」

の声が聞こえる給食を目指して

残食から見る食環境を考える

残食に関する日々の取り組みを給食室、保育士と両方の面から考えた。P D C Aサイクルで残食の原因を見つけ解決できることに気づき、課題の中で家庭との連携が重要だとわかった。そこで食育アンケートを実施した。苦手な食材を使用した保育園での人気のレシピ集の作成・配布をしたり、おたより、絵本を通して家庭に情報発信したりすることを実践してきた。食環境は保育全体を通して提案・保証することが重要であり、各専門職が共有、共感し合うことで園全体での連携による食育の推進が図られることがわかった。

発表(三) 乳幼児期における

咀嚼力の形成と向上

くみくみ ごっくん たのしいね

噛むことの大切さを知り、上手に噛んで食べる子どもを育てる、咀嚼力形成のために、保育士として必要な知識と技術を養う、咀嚼の重要性に対する保護者の意識を高めることを柱にし実践してきた。子ども、保育士、保護者共に意識が変わり向上してきている。今後咀嚼の重要性を職員間で共通認識し、取

り組みへの検討、改善が必要である。

助言者より

人は本来土から作り上げていくことが原点。子どもたちが五感で感じ食事を楽しくできるようにしていくこと。家庭、地域も巻き込みながら、食育を推進していくことが重要である。また、これまでは経験と勘と言われていたことも、しっかりと理論を入れ、新保育所保育指針や幼児期の終わりまでに育ってほしい十の姿や食育推進ビジョンを踏まえていく必要がある。



第七分科会

テーマ【保育の社会化にむけて

～保育の営みをいかに社会に発信するか～】

発表者 ①御殿場市 神山認定こども園

統括園長 本崎 肇

②藤枝市 藤枝保育園

保育士 山下 雅子

③浜松市 中央ながかみ保育園

園長 緒方まなみ

議長 御殿場市 すみれ保育園

園長 鷹野 一広

助言者 常葉大学短期大学部

教授 鈴木久美子

記録者 沼津市 まいとりや保育園

保育士 望月 沙綾

発表(一) 保育の社会化にむけて

～保育の営みをいかに社会に発信するか～

ピーター・F・ドラッカーが提唱するマネジメントの考え方を取り入れることで本物の保育を目指し革新を続け、モンテッソーリ教育を基本とする質の良い保育を確立。そして二〇〇〇にもものぼる教材を開発。社会思考のマーケティング、モンテッソーリに基づいた教育方針、様々な情報発信の活用を行い顧客の創造と見える化を実践することで、魅力ある保育の体制を作り上げた。今後はこれまでに積み上げてきたマーケティング技法、ソー

シャルマーケティングの技法を活用し、地域の子どもたちの課題を解決していきたい。

発表(二) 子育て支援センターの活動及び

保育園での子育て文化への

関心を高めるための取組

藤枝保育園の取り組みを発信し、地域全体で子どもに関心を持ち、子どもの健やかな育成に貢献出来たらと考え、保育の営みが社会に発信できているのかを念頭に置き研究に取り組む。内容は子育て支援センターの活動と理解、体験学習の受け入れや老人施設との交流などの地域交流、情報発信による社会化を行った。実践を通して、保育園以外の人とのふれあいの大切さ、地域の方との交流で子どもたちが育てられていることを再確認することができた。今後は地域に視野を広げ、地域の人と人をつなぐ子育て支援を展開していきたい。

発表(三) 多様な人々との交流の取り組みから

子どもの育ちへ

建物の一～二階が保育園、三～四階がサービスピ付き高齢者住宅、その隣には介護老人福祉施設があり、赤ちゃんからお年寄りが日常的に自然な形で大きな家族のように関われる場所にしたという理想を持っている。実践としては高齢者との関わりで日常的なお互いが行き来し行事には誘い合って交流。保護者との関わりではファミリーデーを取り組み、我が子以外とも交流できる貴重な場となる。散

歩で商店街に行くなど様々な体験から活動が広がっている。家族以外の大人と関わる体験により、心の育ちに大きな成果を感じる結果となった。

助言者より

本分科会のテーマが発展的に、そして成熟したかたちで多面的に発表された。発表一は、ソーシャル・マネジメントという新たな発想に基づいた実践報告、発表二は子育て支援センターと保育所が連携した多様な取り組みの実践報告、発表三は高齢者施設と保育所施設が一体化した環境下における実践報告と、三者が異なる観点でありながら、分科会のテーマに極めて即した報告であった。そして三報告を併せて聞くことによって、会場全体で保育の営みのゆたかさや発信の重要性を実感でき得た有意義な分科会となった。



第八分科会

テーマ【公立保育園・公立認定こども園等の使命と地域社会での役割】

発表者 ①熱海市 小嵐保育園 園長 岩本 瑞枝

②吉田町 さくら保育園 園長 中村史余子

③菊川市 おおぞら認定こども園 主幹保育教諭 馬淵 元子

議長 牧之原市 地頭方保育園 園長 名波 令子

助言者 東海大学短期大学部 教授 徳浪 芳江

記録者 牧之原市 菅山保育園 園長 榎本知枝子

発表(一) 幼保の連携と就学前教育の充実に向けて

認定こども園の開設に向け、保育園の管轄が福祉分野から教育委員会へと変わり、市の掲げる「就学前教育の充実」に向け様々な取り組みを行った。幼保の交流、小学校との接続、他機関との連携等、職員の研修や連携だけでなく、子どもたちも近隣の幼保や小学校との交流を図ることで、小学校や他機関との連携の強化につながった。

今後公立園として、一層地域の交流を進めながら、熱海市の未来を担い郷土を愛する子どもたちの育成のため親同士が支え合い、

地域が支え合える園を目指していきたい。

発表(二) 今後の公立保育所の役割と関係機関との連携

幼児教育が成長の土台として不可欠だという認識を基に「つながりのある教育」の推進を掲げ、不十分だった保・幼・小が「育てた子どもの姿」の実現に向け「吉田町幼児教育カリキュラム」の作成や公開保育の実施、同じ小学校へ通う保・幼・事業所が小学校へ訪問、こども支援事業所との交流などの連携を図っている。

今後も子どもたちのより良い育ちに寄り添い、発達と学びの連続性を踏まえ小学校へと滑らかにつながるための保育について探り、連携しながら実施していきたい。

発表(三) 市内幼児施設園の運営充実に

目指して

園児の受け入れ拡大と公私園の共存を念頭に「菊川市幼児施設整備計画」の基、運営充実に目指し職員の資質向上のための講演会や公開保育の実施。小学校との交流、園開放から相談しやすい関係作りなど家庭教育の推進、要保護家庭児の全面受け入れ、職業体験等の受け入れなど、公立園を足がかりに様々な取り組みを進めている。

行政との繋がりの中、子どもの命を守ること、資質向上のための話題提供、将来につながる人材育成が公立園としての大事な役割。保育現場から配信していきたい。

助言者より

幼保が近づこうとしていることや幼小の接続が周知されてきたことが伺える。これは要領や指針改正の成果。「一〇の姿」は保育士の振り返りのための視点であり子どもの成果を計るものではない。公立園は専門機関とも繋がりやすく、要保護児童の全ての受け入れや保育料無償化に伴い税金が当てられることから更に使命は重い。保育の質の向上のため市町をリードするプライドを持ち私立園とも力を合わせて行くことが大事である。



県保育研究大会に参加して

第一分科会

三つの発表を聞かせていただき、共通して感じたことは、どんな時も子ども一人ひとりを見つめ生き生きとした表情や興味・関心を広げていく保育をしたいという思いでした。また、子どもが主体的に活動する中で五感をフル活用し、笑っている・集中している姿を大切にし、子どもが見せる何気ない表情や、言葉にならない思いを感じられることは、保育士の専門性を高めているということに共感できました。

私たち保育士は、どの子もかわいいと思いますが毎日接して保育を行っています。それは、新たな時代になっても決して変わらないことだと思えます。これからも、子どもの気持ちを第一に考え、大切にしていきたいと改めて思いました。

六合第一保育園 深澤 真矢

第二分科会

同じように悩みを持つ園が、就学時前の五歳児健診で集団の中から見える姿をみてもらうことや療育機関を見学し対応を取り入れる等の独自の取り組みを行い、子どもがより過

ごしやすく生活できるように考えていくことが、子ども・保護者への支援や成果につながっている印象に残りました。

また、子どもへの課題・気になる姿を「エールプラン」とポジティブ思考に変えるだけで保育士の見方が変わっていき、出来るところ・伸ばしたいところ等：良いところを見つけていこうと思え、それこそ子どもへの働きかけに欠かせないことであると感じました。

島田聖母保育園 永田 亮子

第三分科会

「保育者の資質向上を図る」をテーマに各園の発表が行われました。公立・私立、園のおかれている状況、職員の構成、服務など資質向上のための捉え方は幅広くあり、その園の課題を解決していくことが、保育者の資質向上につながっていることを改めて感じました。課題へ取り組み方法は、いろいろあり印象に残ったのは、外部の講師を月一度招いて「受容と傾聴」の基本姿勢を学んでいるお話でした。職員が同じ話を聞くことで共有感が生まれ保育に向かう姿勢も理解しあえるものになっていくのではないかと感じました。

また、助言者の山本先生のお話の中で「今

の世の中で生き残る力」を子ども達につけていくためには、どんな保育をしていくかどんな環境を用意していくかの大切さを改めて感じ、職員の仕事に向ける姿勢を多面的に考え同僚性を養っていくことがますます重要になってくることを感じました。

静岡市立高部こども園 坪内 和美

第四分科会

改訂された保育所保育指針では、家庭や地域と連携した子育て支援の必要性が強調されました。『地域の子育て家庭への支援の充実に向けて』をテーマにした第四分科会では、地域の子育て家庭への支援、在園児の保護者への支援の取り組みを、三つの園それぞれの視点で研究発表されていました。研究は日ごろの保育を振り返りながら行われていて、どの園も職員の共通理解のもと、保育実践を高めるための検討会が計画実行され、自分たちで進めていく主体的な取り組みであったことがよくわかり、大変勉強になりました。

未来を担うべき子どもたちの豊かな成長・発達には、地域との繋がりが、連携が必要であり、私たち保育士は、保護者と共に子どもたちの育ちを見守り、考え、支え合っていく支援を大切にしていかなくていけないと、改めて感じました。

御殿場市立西保育園 江口 純子

第五分科会

『子どもものより良い育ちに向けた関係機関とのネットワーク』をテーマに三つの園の発表を聞きました。一年生のカリキュラムに幼児との交流を取り入れた「幼保小の連携活動」、近隣の園との交流会を開いた「五歳児遊びの会」、ボランティアと共同で行う「居場所づくり」や「バケツ稲栽培」と各園が地域性を活かした素敵な取り組みをしていました。地域を巻き込んだのネットワークづくりの苦労話も聞くことができ、地域によって連携や交流の度合いも違ってることがわかりました。

自分の園の取り組みや地域性を振り返るきっかけにもなりました。園だけではできない体験や関わりが子どもたちを豊かにし、また、相互に育ちあっていることを知りました。

みどり認定こども園 谷澤 陽子

第六分科会

「食を営む力」の基礎を培う食育の推進をテーマとした三園の研究発表を聞き、子ども
の食を支えるためには（給食・保育者・保護
者）の三者が協力関係を築くことが大切であ
ると感じた。園内において給食・保育者の行
う食への取り組みが、一方通行になってしま
っては、思うような成果は得ることが出来な
い。なぜそのようにしたのか等を言葉にして

相手に伝える必要があるという事、そして、積極的に情報交換を行っていく事で食育への理解が深まり、より一層良いアイデアを生むのではないかと考えた。また、その活動を園内だけに留めずに保護者へ発信をしたり、保護者の抱える悩みを聞き、共有することが協力関係への第一歩だと感じた。

一言に食育活動といっても、園によって様々な取り組みがあり、全てを取り入れることは難しい。今回の研究発表を参考にし、子どもが食に興味を持って、楽しく美味しく給食を食べられるよう、専門性を高めていきたい。そして、三者が協力しながら食育に取り組めるように努力していく所存です。

岩松保育園 長沼ゆりか

第七分科会

「保育の社会化に向けて、保育の営みをいかに社会に発信するか」をテーマに、マネージャー・マーケティングから、ソーシヤル・マーケティングへ。子育て支援センターや地域交流への取り組み。多様な人々との交流への取り組み。など、他方面から保育の社会化に向けての営みを学ぶことができた。各園、特色を生かし、家庭、地域、社会にしっかりとした理念を持ち、発信していった。

私たちも、今までやってきていることを続けつつ、今回学んだことを考え、加えながら、

保育士として大切な子どもたちの部分での質をあげ、子どもたちが育てば、子どもたち自身が発信してくれる。自信を持って育てていきたいと思いました。それとともに、開かれた保育を経験できる環境をつくり、次世代の保育士になりえる方々にむけての発信も考えていく必要があると思いました。

富岳キッズセンターあい 近藤 美津代

第八分科会

各園の発表を聞かせて頂き、三園とも保幼小での連携がされていて、互いが少しずつ歩みより、きれめのない子どもの育ちを支えるために共通理解をしようとしていることを感じました。

取り組みの中で課題が生まれたり、発表後の話し合いの中で連携が取りにくい市町の状況があったりしますが、助言者より無理と思っていることでもやるのが大事。やった後に得られること・効果あるものがあるという話があり、自園で何ができるかを考えていきたいと思いました。その他にも関係機関との連携や地域との交流、職場体験・未就園児等の交流を通して、乳幼児教育の重要性を配信していく大切さも感じました。

すみれ保育園 小西 みどり

新規採用予定職員研修会

東部支部

月 日 平成三十一年二月二十六～二十七日
会 場 三島市 箱根の里少年自然の家
参加者 六十二名

開会式終了後、班内で役を決め、すぐに野外活動のポイントラリーを行いました。先程出会ったばかりの人達が協力し、知恵や経験、個々の性格を絞りより良い点数、タイムを制限時間内で求めました。そのチームワークを基とし、昼食は飯盒炊飯でカレーとそれを食べる道具を竹で作りました。そこで更に深みが得られたように思います。午後の講義は「社会人として一番大切なこと」と題してアップハート代表勝又ひで子先生より、社会人として最低限の礼儀を教えていただきました。先生のお言葉で「ありがとう」という言葉は日本語で素晴らしい言葉で、先生自身も、意識をして多く心を込めて言うように心がけているという言葉が印象に残りました。また、夕食後に行われた交流会「室内オリンピック」では、実行委員によるダンスパフォーマンスで景気をつけ、研修生達は各種競技を楽しく真剣に取り組み、更に団結が深まったように思います。

二日目の講義は「保育園・認定こども園にとって一番大切なこと」を県保連 土山雅之副会長、「あなたにとって一番大切なこと」を、

県保育士会 吉川慶子
会長より、それぞれ保
育園、保育士の使命と
役割、施設職員として
の基礎知識を教えてい
ただきました。そして

「SNS利用時の倫理的な判断と行動の重要性について」と題し、NPO法人浜松こどもとメディアリテラシー研究所代表の中澤弘子氏によるメディアに対する意識の見直し、自分がSNSを使う時十分に注意をしなければ

いけない、その為には想像を膨らませ、勢いだけでは決してしない事、社会人ならば、責任のある立場になるということを、強く言われました。非常に厳しくも温かいご助言だったと思います。保育に携わる者としての心を忘れない為にも、貴重な時間と仲間のご縁をいただいた経験になったと思います。研修生には、この体験を一つの帰る場所にしていたければと思います。実行委員を含めお互いに研鑽を積み、研修生方といつかまた会える日を願っております。皆さんお疲れ様でした。貴重な経験をさせていただいて、ありがとうございます



中部支部

月 日 平成三十一年二月十九日～二十日
会 場 静岡県立焼津青少年の家
参加者 九十五名

焼津駅前集合から研修が始まります。バス二台に分乗して青少年の家を目指します。例年朝一番に集まった研修生がこの二日間の研修の初心表明をすると伝えられます。初めに所員さんの挨拶、オリエンテーションがあり、班長や生活係など役割を決めて班別行動をします。

講義一は、県保育連合会中部支部長の私、海野が「保育所の使命と役割」というテーマで保育所の法的な位置づけ、社会的な使命についてお話ししました。

講義二では中野恵子県保育士会副会長より「保育者としての役割」というテーマで保育者としての服務規律や危機管理意識、子どもの権利条約などについてパワーポイントを使って分かり易く講演いただきました。

午後には、以前この研修に参加された、なかよし保育園の保育士、宮内美紀さん、なかよし大富保育園の保育士、待井志穂さんより、実際に保育にかかわった体験談を聞かせて頂きました。

その後は明星保育園の櫻井英世先生の手遊び・歌遊びの実技指導がありました。乳児か

ございました。

実行委員長 いずみ保育園 十八公浄滋

ら幼児までそれぞれの年齢にあったものが紹介されました。午後は、屋外でチャレンジラリーの予定でしたが雨天の為、体育館、小体育館、創作室、廊下など工夫して使用し、各別に一〇個のチャレンジにかかった時間を競い合いました。ここに来て急に班のみんなとの一体感が高まりました。

夕食後は、各宿泊室で、実行委員が研修生の不安や悩みを聞いて助言や勇気づけをしてもらい貴重な時間を持つことが出来ました。

園で実習生を受け入れる時の振り返りや、言葉がけなど私達も学びの時となりました。

二日目講義三は、駿河こどものとも社代表の、高林公一氏による「子どもと絵本」というテーマで絵本の楽しみ方、保育におけるその活用を、お話しいただきました。

講義四は、土方良子先生による「私が目指す保育者を明確にする」というテーマでした。一人一人が積極的に参加していけるよう、土方先生により声掛け、指導を頂き、コミュニケーション力がグンと高まりました。

研修生にとっては時間に厳しい盛りだくさんの研修でした。これから、職場の仲間と、子どもたちと、そしてその保護者と良い関係



で過ごしていけるスキルをお土産に頂いたのではないでしょうか。この二日間を通して研修生から一社会人としての思いが深まったように思います。四月から研修生の皆さんの力が大いに発揮できますように陰ながら応援しています。終わりに、講師の先生方や実行委員の皆様のおかげで新採研が無事に終了できましたことをここに感謝申し上げます。

実行委員長 一番町保育園 海野 美代子

西部支部

月 日 平成三十一年二月十九日～二十日

会 場 静岡県立三ヶ日青年の家

参加者 一〇二名

西部支部では例年通り二泊三日で研修を行い、一〇二名の研修生が参加しました。

一日目、会場に到着すると早速、県保連西部支部岡田支部長から「保育所・認定こども園の使命と役割」の講義を受けました。

午後は二時間から三時間かけて班ごとに歩くウォークラリーを実施しました。チェックポイントではクイズやゲームも行い、チームで助け合ったり、励まし合ったりする大切さを実感しながら親睦を深めることができました。夜には「子どもと絵本をひらくとき」をテーマに絵本についての講義を受けました。身近にある保育用具である絵本の奥深さについて、再認識する時間となりました。

二日目、県保育士会岡本副会長の講義。「保育者としての自覚と責務」について学びまし

た。次の「わらべうたを通して育つもの」の講義では、養成校ではあまり触れることのないわらべうたを学び、情緒の安定や信頼関係の構築につながる実技に触れることが出来ました。午後には「SNS利用時の倫理的な判断と行動の重要性について」最新のネット・ケータイ・スマホ」と「子どもとあそぼう」の二つの講義を受けました。安易なSNSの利用が思わぬトラブルを招き、大きな問題になる恐れしさを実感しました。夜の「現場からのアドバイス」では、新たな試みとして事前アンケートを行ったことで、聞く側も答える側も進行的がスムーズになり、良い話し合いの時間となりました。

三日目、最後に「社会人として一番大切なこと」人間関係と服務接遇」の講義を受けました。疲れはあったかとも思いますが、最後まで集中して研修に臨んでいました。

三日間という長丁場の研修でしたが、講師や実行委員の先生方の協力のおかげで無事に終了することができました。今後、素敵な保育士・保育教諭へと成長していくものと、信じております。

実行委員長 ひくまこども園 山田佳敬



令和元年度 保育士養成施設(校)

と静岡県保育連合会との 意見交換会 開催される

令和元年七月八日に静岡県総合社会福祉会館シズウェルにおいて、県保育連合会の正副会長及び研修委員と保育士養成施設十九校と静岡県社会福祉協議会社会福祉人材センター静岡県・静岡市 保育士・保育所支援センターとの意見交換会が行われました。

土山雅之会長、吉川慶子県保育士会長の挨拶の後、静岡県社会福祉協議会福祉人材部小泉奈加之部長並びに松田智参事より、活動内容の説明がありました。

その後、より濃密な意見交換会となるように、二つグループに分かれ、意見交換を行う主な意見は次のとおりです。

(養成校参加者からの発言)

- ・新卒で幹旋業者へ就職する学生はいるが、「県外にどうしても出たいが、頼る宛てがなく仕方なしに。」という個人的な理由がある場合のみ認めている。
- ・「卒業してすぐの人、卒業して何年か経過した人」に来てもらい、保育現場の話や在校生からの質問に応えてもらっている。最近の学生は給料について質問をする子が増えている。
- ・東京、横浜は明らかに「見かけの額」が高い。学生は給料の知識が無いので、給料に

ついての教育も必要だと感じている。

- ・早期退職者について、二年以内の早期退職の理由に「人間関係」があるが、具体的にどのようなことなのか。

- ・学生が就職を考える際、「まずは公立」という考えを持つかという点、そんなことはない。最近の学生はだいぶ変わってきた。公私立関係なく「少しでも良い園に就職したい。」という意識が高い。ただ、学生は私立に行きたくても保護者が公立を勧める傾向がある。

- ・実習日誌について、ある園ではカメラ持参で写真を撮り、その写真に対して自分の感想・考察を付け加える。今までは文字だけで表現していたが、画像や絵が入ることで捉えやすくなるようだ。

- ・最近の学生は小規模を希望する子が多くなった。学校側は「小規模園では色々なことを経験できない。」と伝えている。

- ・実習日誌の書き方が学校や園によっても違うところがあるが、時系列で書くものと、エピソード記録など以外で、園でここに注目してほしいところや独自の書き方などがあれば教えてほしい。

- ・学校側として記録は手書きで進めているが、パソコンでやっていくことはどうか。



- ・学生の記録の中心が保育士の動きになっていて、子どもの位置をどう捉えているのか。実習簿への助言は、保育士としての学びになるため遠慮なくいただきたい。学校でも学生にフォローをしていく。学生が前向きになれる、見通しが持てる助言をお願いしたい。

- ・今日の保育はどのような「ねらい」を持って行われているのか考えてほしい。ねらいを達成するためにどんな環境を用意して、子どもたちの動きに対してどんな支援をし



ているか、ねらいに対して反省を書くように指導をしている。

（保育連合会参加者からの発言）

・少なくとも新卒で幹旋業者へ就職することは望ましいとは考えにくい。学生が幹旋業者へ就職を考える場合、学校側は考え直すよう指導をお願いしたい。

・保育所や認定こども園の運営の原資は決まったところからしか入らない。園によって「ものすごく高い初任給を出す」ところが

実際に存在するのか。

・早期退職について、保育士会では研修の中で「何に悩んでいるのか。」を調査した。結果「同僚との関係、先輩との関係」が挙げられる。保育士会では保育士が悩み、抱え込んでいるものを吐き出すことができる研修会を展開できれば・・・と考えている。最近の学生は「小規模園は楽で良い」と考えている学生もいるようだが、実際はどうなのか。

・実習簿に関して静岡県は学校によって重点事項が違う。愛知県は統一の用紙がある。エピソード記録は読む側にも刺激になる。・養成校の方で実習簿の提出自体がデータに変われば施設側は合わせて対応していくと思う。

・養成校側から園側に学生ごとに学ばせたいこと等の情報が事前にあれば、教えていたきたい。巡回の際に伝えることもできる。・若手教育について、何でこれをやっているのか意味や方向性を伝える。上下関係の中で教えるのではなくて、共同で作っていくパートナーであることを認識するように伝えている。

（養成施設より）

・内定した園から事前研修、オリエンテーションの案内がきて学生が参加した際には、賃金が発生するのではないか。

研修説明、賃金、保険など事前に示してほしい。（愛知県は、養成校側から園側へ話

をして連絡協議会から文書を出している）

（おわりに）

・人と人とのつながりが一番大事な仕事なので、学生や養成校の皆様とも時間を作りコミュニケーションを取り合って、学生が「この仕事で本当に良かった」と言える現場でありたいし、そう言える学生を育てていきたい。



各研修報告

施設長研修

期日 平成三十一年二月二十四日(木)
会場 清水テルサ

施設長としての役割を再認識し、資質向上を図ることを開催の趣旨とし、三三三名の参加で四つテーマで開催いたしました。

講義①は、「水防災」保育園・認定こども園で備えたいこと」と題し、公益社団法人日本生体系協会教育センター長の田邊龍太氏にご講演を頂きました。

講義②は、静岡県保育連合会の後藤弘明会長による「保育情勢報告」。様々なデータを基に「保育人材の確保について」「三歳以上児の保育料無償化について」の説明をして頂きました。

講義③は、「カンボジアへの幼児教育支援から学び得たもの」と題し、社会福祉法人天竜厚生会子育てセンターみなみしま園長の伊藤孝氏となぎさ保育園保育士大霜光里氏にご報告頂きました。また、静岡県健康福祉部こども未来課保育人材班長の山崎剛氏より「カンボジアにおける幼児教育・保育の質の改善事業について」静岡県の取り組みを説明して頂きました。

講義④は、「ヒトはどこから生まれるのか」最新進化学が解き明かす心の起源」と題し、総合研究大学院大学学長の長谷川眞理子氏にご講演を頂きました。

新規採用職員研修会

期日 令和元年五月二十九・三十日(木・金)
会場 静岡県産業経済会館

一日目、一〇二名の参加で開講式に引き続き静岡県保育連合会・土山雅之会長が講義①「保育所・認定こども園等の使命と役割」というテーマで、保育を取り巻く環境についてや、社会に貢献出来る人に育って下さいと激励も頂きました。講義②静岡県保育士会・吉川慶子会長は、「保育者の使命と役割」というテーマで、倫理観をもって、心と身を整え反省を重ね真の保育者となって下さい。と倉橋惣三先生の一文を交えお話し頂きました。講義③は日本社会事業大学地域貢献センター客員教授・小沼肇氏が「新人保育者の責任とプライド」というテーマ、講義④はNPO法人浜松子どもメディアリテラシー研究所代表長澤弘子氏が「SNS利用時の倫理的な判断と行動の重要性について」というテーマでそれぞれお話を頂きました。

二日目の講義⑤は株式会社駿河こどものとも社代表取締役高林公一氏が「子どもと絵本」というテーマでお話し頂き、講義⑥はコーチングネットワーク静岡代表土方良子氏が「保育者としてのあり方・勤務接遇」について少人数のワークを通して、保育者としての気づきや学びを深める講義でした。

二日間を通して内容の濃い講義ばかりでしたが、参加者は楽しく有意義な時間を過ごすことが出来たと思います。

青年部総会・シンポジウム

期日 令和元年六月十四日(金)
会場 静岡県産業経済会館

役員改選後初の開催となったシンポジウムは新役員を中心とした構成で行われました。コーディネーターのえじり保育園の井出孝太郎園長を中心とし、東部はすみれ認定こども園の後藤恭佑園長、中部はセイウモンテッソリーこども園の白井紀宏副園長、西部は桜木こどもの森の岡田博次園長をお招きし、「保育の環境を考えよう」のテーマのもと各園の実践事例を交えての話題提供となりました。

後藤先生からは、「自分で考えて行動して、責任を持つ」場面をやることで達成感が得られ、次への意欲につながる。人的・物的・自然・社会・生活環境が大切であるというお話を頂きました。白井先生からは、モンテッソーリ教育の取組内容をお話し頂きました。

子どもには敏感期があり、環境の中から必要なことを吸収し、人格形成していく。園ではそれらを「おしごと」と名付け実践し、自信や満足感等に繋がっているとの事でした。最後に岡田先生からは、保育内容と環境の見直しと題し、現在の魅力ある保育に至るまでの過程等をお話し頂きました。保育が変わる事への不安の払拭にかかる苦労や、園全体で実践する事、保育者も主体的に行動し成功体験を重ねる事が大切とお話を頂きました。

昨年同様リアルタイムアンケートも活用し、大変充実したシンポジウムとなりました。

研修委員会

委員長 ひくまこども園 山田佳敬

本年度上期に開催の所長研修会と新規採用職員研修会は盛会の内に終了致しました。皆様のご協力に感謝致します。内容は、ほいく静岡の各研修報告のページをご覧ください。

さて、「子ども・子育て支援新制度」開始から五年目となり、見直しが始まっておりますが、質の向上や保育士の処遇改善という点では、まだまだ不十分と言わざるを得ません。会員園の保育の質の向上につながるよう、より効果的な研修を開催できるように努めて参りたいと考えております。

下期の研修会は次の通りです。

○民間園長研修会(ホテルセンチュリー静岡)

令和元年十月二十四日～二十五日

○育児相談研修会

①西部地区(アクトシティ浜松)

令和元年十一月十一日(月)

②東部地区(沼津市民文化センター)

令和元年十一月六日(水)

③中部地区(静岡音楽館AOI)

令和元年十一月十九日(火)

○施設長研修会(グランシップ静岡)

令和二年一月三十日(木)

○新規採用予定職員研修会

令和二年二月中旬から下旬

(会場は各支部の研修会場にて)

キャリアアップ委員会

委員長 聖心保育園 吉川慶子

今年度も静岡県から静岡県保育連合会が受託し、静岡県保育士会と協同で「静岡県保育士等キャリアアップ研修」が始まりました。

昨年度からの懸案事項であった、受講申し込み等を含む受講管理のシステム化も業者との打ち合わせを重ね、なるべく早い時期に運用できるよう準備中です。会員の皆様にはしばらくご不便をおかけいたします。

マネジメントを含む七分野を九会場で実施いたします。研修実施について会員園より様々なご意見も頂戴しておりますが、講師・会場・日程等の調整など、既存の基幹事業をこなしながらスタッフも時間を割き運営していることにご理解をいただき、該当職員の研修会受講にご配慮いただければ幸いです。

今後の実施予定は次の通りです。

○保護者支援・子育て支援(グランシップ)

九月五日～七日

○乳児保育(グランシップ)

九月二十二日～二十四日

○幼児教育(グランシップ)

九月二十四日～二十六日

○保健衛生・安全対策(プラサヴェルデ)

十月八日・十一日・十二日

○障害児保育(グランシップ)

十月十六日～十八日

○マネジメント 東部・中部・西部の三支部で十一月～十二月の期間で実施します。

少子化等問題対策委員会

委員長 一番町保育園 海野美代子

保育所・認定こども園利用者以外に、子育て支援への関心と理解を求める啓発活動を行った場合の経費(一事業五万円)を助成する「子育て支援啓発活動事業助成金制度」を実施しています。これは複数の施設や団体で行う事業であれば民間園や公立園の区別なく、また、保護者会等の団体でも助成対象としてあります。各支部三事業(十五万円)の予算を組んでおりますので、この助成金を活用したい団体は、各支部事務局にご連絡ください。

また、啓発品として「あいあいホットマークバッチ」「クリアファイル」を用意しています。ご協力よろしく願います。

広報委員会

委員長 あいわ保育園 増田俊一

暫く、休止していましたホームページがリニューアルしました。今回のリニューアルによりホームページからキャリアアップ研修の参加申込みができるようになりました。今後、自主研修会の申込みにも対応できるよう準備中です。

また、掲載内容についても検討をしていく予定です。



海外交流研修

フィンランド 令和元年六月三日〜七日

中郷南保育園 園長 瀬川 尊也

七月三日から七月七日まで海外交流研修でフィンランドに行きました。国連の幸福度ランキング二年連続一位、北欧は教育先進国と言われていることもあり、非常に楽しみな視察でした。

まず保育園を視察しました。以下、その特徴を箇条書きで列挙します。

- ・定員一〇〇人。二〇二二年開園。七時〜一七時まで開園。
- ・殆どが自治体の運営。職員は公務員。
- ・七〜八人のグループに分けて活動
- ・一クラスに一人は幼稚園教諭が入り、その人が計画を立てる。



- ・活動↓休憩（くつろぎ）の時間を意識している。
- ・保育園にソファが点在しており、くつろぎを意識している。

- ・園児と職員 の割合、三歳以上児↓八対一、三歳未満児↓四対一。

- ・ネガティブより（これはやっちゃダメ）ポジティブな（得意なことを伸ばす）個別計画を立てることに意識。（親と一緒に作成）



- ・移民、難民の子どももいる（その人たちに対応する為の職員研修がある）
- ・場所によっては六〇%以上外国人の園もある（貧しい地域）
- ・七月はフィンランド人が長期休暇に入るため保育園は休園。六月は片付け期間。
- ・全部で五クラス。六歳児クラス（プレスクール。フィンランドは七歳〜一六歳までが義務教育）一つ。三〜五歳児クラス二つ。

- ・三歳以下クラス一つ。障害児クラス一つ。
- ・障害児クラスは一六名、うち実際の障害児は六名、健常児一〇名。ノーマライゼーション（平等に教育を受ける権利）の観点から一緒に学ばせている。重度は別。
- ・運動、お遊戯、遊び、コミュニケーション能力に力を入れている。
- ・ただ遊ばせるだけでなく計画を立てて、遊びの意義と狙いを意識する。





・おもちゃなど物を大切にす
るよう
教えて
いる。
・雨でも
外に出
る。保
育園に
スキー
場の乾
燥室の
ような
設備が
ある。

・山や公園などによく遊びに行く。自然でしか学べない事も多いとのこと。

・プレスクールは一日四時間の勉強。

・飽きないように体を動かしたり遊びを取り入れたりしながら。

・お昼寝あり。日本の事情とほぼ同じ。(年齢が上の子ほど昼寝しない)

・朝早く来た園児には朝食あり。(軽くおかゆなど)

・給食は無料。

・机と椅子が大人向けの高さ。

次に国家教育委員会を視察しました。印象に残ったことを列挙します。



・国と自治体が大まかな計画を立て、実際の内容については現場に任せる。

・先生たち用の指針の教科書がある(参考程度に)

・フィンランドはPISAの成績がいいが、国としては意識していない。

・それよりも現代に対応できる人間が育って欲しいと思っている。(社交性や協調性など)



・勉強では一応算数に力を入れている。
・保育園から義務教育終わりまで担当省庁が同じなので一貫した教育理念やグランドデザインがある。
最後にになりましたが、企画や視察先で動いてくださった海外研修委員の皆様、また協力していただいた先生方、そして参加の皆様、本当にありがとうございました。今回の海外研修を糧に、来年度の海外研修は、より良いものを提供できればと考えていますので、今後先生方のご指導ご鞭撻のほどを、よろしくお願いいたします。

令和
元年度

静岡県保育士等キャリアアップ研修

令和元年度始めの静岡県保育士等キャリアアップ研修が、アクトシティ浜松コングレックスセンターで行われました。昨年に引き続き、県から静岡県保育士連合会への委託により実施しています。この事業は、保育現場におけるリーダー的職員に育成に必要な専門性の向上を図る目的であり、保育士等の質の向上や保育士処遇改善等の取り組み重要問題でもあり、ます。これらのことから、当連合会としても自ら積極的に研修に取り組み必要性を感じ、静岡県保育士会と協働して進めているところです。



食育・アレルギー分野のキャリアアップ研修が、六月二十五日から二十七日三日間三百名参加し、開催されました。沢山の人数参加で会

場もいっぱいでした。昨年度に受講を経験していた職員も多く、緊張している様子と活気ある雰囲気から始まりました。初日の開講式では、静岡県保育士会吉川会長よりお言葉を頂き身を引き締めて研修に望む心を改めて実感いたしました。

一日目の講師は、浜松市幼児教育・保育課管理栄養士 乙部智恵美氏による「保育所における食事の提供ガイドライン」について講義がありました。厚労省による集計を紹介しながらの講義で、パワーポイントと資料を



みながらどの受講者も真剣に耳を傾けていました。

二日目の講師は、常葉大学こども健康学科准教授 木山幹恵氏、特任講師阿部

眞弓氏による「アレルギー疾患の理解」「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」について講義が行われました。二〇一九年度四月に改定があり、興味深くお話を聞くことができました。

三日目は、常葉大学健康栄養学科 講師 小嶋汐美氏 准教授 三浦綾子氏による「食育計画の作成と活用」「栄養に関する基礎知識」について講義がありました。講義の中で演習に取り組んだり、グループワークで各園からの食育計画や情報交換や交流を深めることが出来ました。

今後、障害児保育、幼児教育、乳児教育、マネジメントの各分野の研修が予定されています。園に活用され、積極的な研修参加をよろしくお願いします。

東部支部

支部長 中里保育園 青野貴芳

一、総会及び施設長研修会

期日 令和元年五月十四日（火）
会場 沼津市民文化センター 大会議室
内容 「元素から眺める地球、生命、食事」
講師 有田正規氏

二、中堅保育者研修会

期日 令和元年八月二十九日（木）
～三十日（金）
会場 三島市箱根の里少年自然の家

三、保育の日研修会

期日 令和元年十月十九日（土）
会場 御殿場市民会館

四、民間部会（県外施設視察研修）

期日 令和二年一月中旬
視察先 未定

五、行政部会研修

期日 未定
会場 沼津市民文化センター

六、青年部会研修

期日・会場 未定
七、新規採用予定職員研修会

期日 令和二年二月下旬

会場 三島市箱根の里少年自然の家

八、家庭における読み聞かせ活動の普及

中部支部

支部長 一番町保育園 海野美代子

一、総会及び施設長研修会

期日 令和元年五月十七日（金）
場所 静岡県総合社会福祉会館
講師 関西大学・人間健康学部

演題 「子どもの人権と保育の質」
教授 山縣文治氏

二、職員研修会

期日 令和元年六月十九日（水）
場所 静岡市立日本平動物園
テーマ 「五感を磨き、高い感性の保育者を目指す」

講師 飼育係長 後藤 正氏

三、中堅保育者研修会

期日 令和元年九月十三日（金）
場所 静岡県総合社会福祉会館
講師 ウメハナリレーシヨonz

演題 「中堅がしなやかに輝くリーダーシップコミュニケーション」
代表 松原美里氏

四、新規採用予定職員研修会

期日 令和二年二月十八日～十九日
場所 静岡県立焼津青少年の家

五、各地区・青年部会事業

各地区・青年部会の事業計画に基づいて実施

西部支部

支部長 ルンビニ保育園 岡田泰稔

一、総会及び施設長研修会

期日 令和元年五月十三日（月）
場所 アクトコングレスセンター
講師 社会福祉法人松溪会

内容 働きやすい職場と人材育成
理事長 武居 敏氏

二、男性職員交流研修会・中堅職員研修会

期日 令和元年七月十九日（金）
場所 アクトコングレスセンター
講師 E-ComWorks株式会社

内容 より良い教育・保育現場を実現させるために
代表取締役 山本衣奈子氏

三、初任職員研修会

期日 令和元年九月十二日（木）
場所 アクト音楽工房ホール
講師 日吉の森保育園長 脇淵 爾良氏

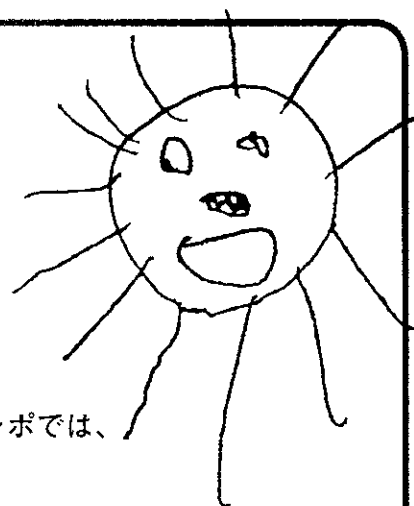
四、小児医療研修会

期日 令和元年十月三十日（水）
場所 アクトコングレスセンター
講師 かわだ小児科アレルギークリニック
栄養士 久保 愛氏

五、新規採用予定職員研修会

期日 令和二年二月十九日～二十一日
場所 静岡県立三ヶ日青年の家

園および園児を さまざまなリスクから サポートします



園経営には、さまざまなリスクが伴います。

公益社団法人全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、
園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する
各種保険を取り扱っております。

ほいくのほけん

「園賠償責任保険」
「園児団体傷害保険(学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険)」
「特別保育事業賠償責任保険」
など、園経営におけるリスクに関する保険を
ラインナップしています。また、それらを総合的に
補償するセットプランもご用意しております。

園児総合保障 共済制度

園児を24時間補償する共済制度
(総合生活保険(こども総合補償))です。
団体契約による割引の適用で割安な掛金で
補償を確保することができます。

上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。
ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

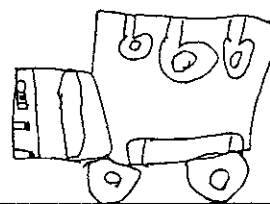
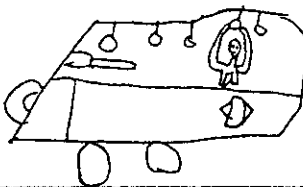
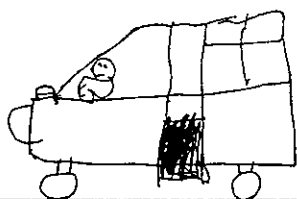
〈連絡先〉 公益社団法人全国私立保育園連盟指定
東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

〈引受保険会社〉
東京海上日動火災保険株式会社
担当課：公務第二部 文教公務室
TEL：03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害
保険特約付帯傷害保険・総合生活保険(こども総合補償)の概要について
ご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパフレットをご覧ください。
詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育園連盟にお渡しする
保険約款によりますが、ご不明点がございましたら、取扱代理店または保険
会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要
事項説明書」をよくお読みください。



紙から創る、コミュニケーション

<http://dainichi-p.co.jp>



自社製造のメモ帳専門メーカーメモ工房。年間 500 万冊以上の実績。販促、ノベルティに最適なメモのことなら大日三協(株)のメモ工房へ！



大日三協株式会社

静岡県静岡市葵区流通センター12-1
TEL:054-263-2435 (代)・FAX:054-263-2409

その他にも色々なメモ帳をご用意！

メモ工房

検索

さまざまな危険からお子さまをお守りする

『園児総合保障共済制度』

AIG損害保険株式会社

日々大きく成長されるお子さまたちの行動には予測できないことも多く、何かとお心づかいのことと存じます。いつ、どこで何が起こるのか予想もつかない事故の、確かな“まもり”として本制度をお届けいたしております。

静岡営業支店 〒420-0851 静岡市葵区黒金町20-1
富士火災静岡ビル5階
☎: 054-686-1150
浜松支店 〒430-7715 浜松市中区板屋町111-2
浜松アクタタワー15階
☎: 053-454-0321
沼津支店 〒410-0801 沼津市大手町2-10-14
三井生命沼津大手町第2ビル2階
☎: 055-963-8081



すべては、子どもたちのために。

地域特有の個性と文化を育み、
保育環境の未来を提案する。
それが、私たちの仕事です。

株式会社 **シャクエツ**

求人掲載
完全無料!!

採用お困りではないですか?



保育士求人

\採用のことなら/

保育情報どっとこむ

保育士/幼稚園教諭/看護師/栄養士/英会話講師

登録者数

57000名

保育の人材紹介・派遣なら>>0120-777-277

まずはお気軽に
お問い合わせ下さい♪

さあ、ワクワク探しの旅に出かけよう! www.tobutoptours.co.jp



**東武
トップ
ツアーズ**

静岡支店

〒420-0859

静岡県静岡市葵区栄町3番1号

あいおいニッセイ同和損保静岡第一ビル10F

TEL.054-255-1919 FAX.054-252-9509

こどもの笑顔がみたいから

安心・安全な
保育園用おやつ



全国の保育園から
お使い頂いています



株式会社サンワールド

<静岡支店> 〒421-0121 静岡市駿河区広野2-10-17

TEL054-256-6332 <http://www.sunworld-honsha.co.jp>

社会福祉法人支援システム「創・ゆとり」シリーズ

保育所「ICT化推進補助金」対応！

保育所事務処理の“作業効率化・正確化”を応援します！

園-SiEN(支援)

園児の記録を統合管理します
出席簿・保育日誌・週案・月案等を、
現在ご利用中の書式でデータ管理
できます！

財務会計2019

「新会計基準」準拠！
シンプルに使いやすく、予算～仕訳
～決算まで安心の、財務会計シス
テムです

給与計算2019

「給与実務カレンダー」「職員一覧入
力画面」等、便利な機能を追加して
生まれ変わった、給与計算システ
ムです



ISO9001・ISO27001認証 ITインテグレーター

株式会社 ユニテック

〒420-0911 静岡県葵区瀬名1丁目18-33 ユニテックビル
TEL:054-264-1111 FAX:054-264-7771

ホームページ www.unitec.jp メールアドレス eigyo@unitec.jp



子ども・子育て支援制度対応・ICT補助金対象システム 「PAL ANGEL (パルエンジェル)」

ICカードで簡単操作の登降園管理、園務日誌、保育計画、報告書等、多様化する 保育園の
事務作業をサポートいたします。クラウドサービスで安心です！

園の紹介、情報公開は簡単便利な
ホームページで！
「らくらく更新web」

苦情解決、事業報告、行事予定、アルバム等が
園のパソコンで簡単に更新できます！

簡単操作のメール配信システム
低価格で多機能！
「チェックインシステム」

緊急連絡他、アンケート調査、質問回答集計、閲
覧状況、受信状況も把握できます！



株式
会社

データサービスセンター

〒411-0912 駿東郡清水町卸団地63-2
TEL:055-972-7717 FAX:055-976-1057

<http://www.dataeast.co.jp> E-mail:h-sanada@dataeast.co.jp

編集後記

御殿場市 双葉保育園 勝又秀文
まだまだ不安ばかりですが頑張ります。

長泉町 このはな保育園 伊藤 悟
皆様のご迷惑にならないよう、頑
張りたいと思います。

富士市 すみれ認定こども園

楽しみながら頑張りたいと思います。宜しくお
願いします。 後藤恭佑

静岡市 あいわ保育園 増田俊一
三たび広報委員となりました。委員の皆さんの
協力をいただきしつかり務めます。

静岡市 城北保育園 松田 剛
二回目の広報委員です。ちよつとわかつてきた
かなあ？今回も頑張ります。宜しく願います。

静岡市 有度十七夜山保育園 笠井友泰
各研修の原稿を書いてくださった皆様ありがと
うございました。

静岡市 草薙ふたばこども園 杉山千暁
初めての広報委員会への参加ですので、皆さん
の足を引っ張らないように頑張りたいです。

島田市 六合第二保育園 平野貴久
初めての広報委員。委員の先生方と良い誌面を
作るため頑張ります。

袋井市 袋井ハロー保育園 鈴木 康
令和第一号ということで気合が入りました。次
号も頑張ります。

湖西市 真愛保育園 松浦弘太郎
早いもので五年が経ちました。これからもでき
るだけ頑張ります。

湖西市 おかさきこども園 鈴木静香
皆さんの足を引っ張らないようにしたいと思います。

わんぱくひろば



「ほいく静岡」原稿写真募集中

保育実践・研究の紹介や育児相談・講座の紹介など奮ってご寄稿下さい。

✉ 投稿先 静岡県保育連合会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1番70号

TEL : 054-251-8873

